

博物館だより



No.93

平成26年1月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666

1月の催し物ガイド

お知らせ①
歴史文化カレッジ後援事業

「みやこ町の歴史を語る」③

みやこ町郷土史研究会主催

●日時 1月25日(土)

10時00分～12時00分

●場所 みやこ町中央公民館

2階 視聴覚室

●講師 みやこ町郷土史研究会

永沼 健さん

●演題等 「帆柱の歴史とこれか

ら」と題したふるさと研

究。発表者がとりくむ郷

土の文化・伝統を活かし

た地域づくりも紹介

●その他 聴講無料。事前申し込み

等の手続きは不要です

お知らせ②

「歴史文化カレッジ」

第5回講座

●日時 1月26日(日)

13時30分～15時00分

●場所 当館研修室

●講師 福岡県文化財保護課

田上 稔氏

●演題等

「福岡県の文化財建造物」

福岡県下に残される建造

物・町並み集落を題材に、

建物・町並みの見どころ

や修理のポイント、活用

状況などを紹介します

お知らせ③

みやこ町文化財防火点検式

●日時 1月26日(日)

10時00分～11時00分

●場所 重要文化財「永沼家住宅」

(みやこ町犀川帆柱)

●内容等

消防機関や地元関係者

共同の防火機器点検・初

期消火訓練。放水銃の点

検放水も行います

●その他 豪雪や荒天時には中止

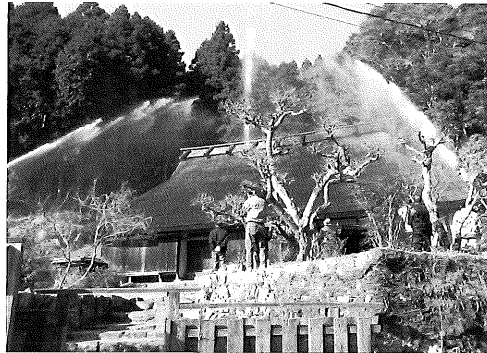
することがあります。

問合せは博物館☎33-

4666まで

※永沼家住宅については、裏面の「み

やこの歴史発見伝」をご覧ください



▲昨年度(H25.1.24)の点検式の様子

1月期歴史講座のご案内

【漢詩紀行講座】

1月11日(土) 9時30分～

【古文書講座】

1月12日(日) 10時00分～

【古典かな講座】

1月18日(土) 9時30分～

【金曜古文書講座】

1月24日(金) 10時00分～

【みやこ学講座】

1月25日(土) 10時00分～

11・12月の業務日誌から

11月23日(土)、友の会との共催事業として秋のバスハイク「陶芸の里めぐり」を行いました。民陶として著名な小石原焼・小鹿田焼の窯元を訪ね、江戸時代以来の技を伝える知恵と努力と苦労を学びました

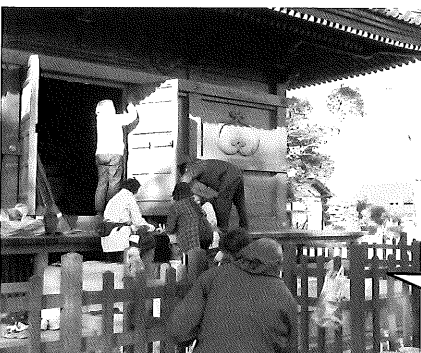
11月24日(日)、豊前国府跡公園で「みやこ町古墳まつり」が開催されました。これは国府跡公園のリニューアル記念を兼ねたまつりで、多くの方にお集りいただきました

11月4日(月)と12月1日(日)、歴史文化カレッジの第3・4回講座が開催され、小林善帆先生に「花の成立と展開」、森弘子先生に「福岡の祭り」と題してご講演いただきました

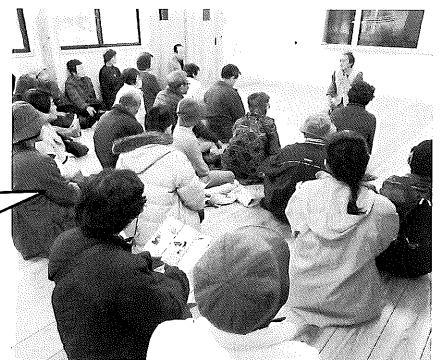
12月7日(土)、友の会恒例の「三重塔すす払い」が行われました。例年にない好天で作業もスムーズに進み、1時間ほどできれいになりました。参加された皆さんお疲れ様でした!



▲遊び場の完成で大いににぎわう国府跡公園



▲20名超の皆さんで手際よく清掃しました



▲小鹿田では陶芸組合長さんにお話を伺いました



▲12/1 森弘子先生の講演「福岡の祭り」

国指定重要文化財 永沼家住宅

【所在地】 京都府みやこ町犀川帆柱721
 【所有者】 みやこ町在住個人
 【建物の規模等】 桁行十間(約十八メートル)・
 梁間五間半(約十メートル)
 入母屋造り・茅葺き・直屋

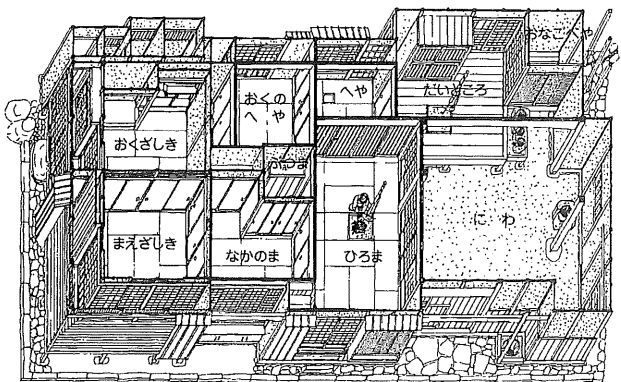
永沼家住宅の位置と環境

永沼家住宅は、約一七〇年前の天保年間に建てられた民家で、修験道の山として名高い英彦山の北麓、現みやこ町帆柱地区(旧伊丹郡帆柱村)に所在します。帆柱地区は祓川(英彦山麓から北流して周防灘に注ぐ)流域では最上流の村ですが、旧築城郡・田川郡・下毛郡に境を接する場所にあります。山越しの道を通じて人々の行き来が盛んな村でした。とくに、北部九州の経済拠点・天領日田(現大分県日田市)との往来においては、その通過点として重要な位置にあったようです。

永沼家は、中世から帆柱の中心的な存在であったといい、江戸時代に入ってから、帆柱村や近隣村の庄屋をつとめました。また小倉藩では、十数か村をまとめて「手永」という行政区を設け、その統括者に「大庄屋」を置きましたが、永沼家の当主の中には伊丹郡節丸手永(現みやこ町犀川・豊津地区の一部)の大庄屋をつとめた人もいました。

永沼家住宅の建設

永沼家住宅の建設について



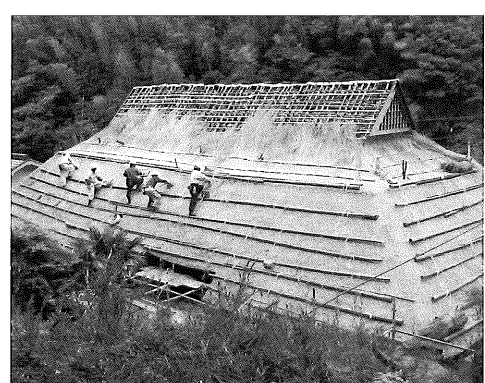
◀永沼家住宅の間取り

は、「家建諸控帳」という古文書が残されていて、建設過程を詳しく知ることができず(ちなみに、この「家建諸控帳」も建物に付随して国重要文化財。それによると、永沼家住宅の建設が始まったのは、天保十年(一八三九)からで、地元からはもちろん、榎木村(中津藩や日田、玖珠(森藩)、さらには広島からも大工などの働き手が集められたことが分かります。材木の伐り出し、旧宅の取り壊し、地均し、基礎づくりと工事は進み、棟上げが行なわれたのは天保十一年(一八四〇)三月十七日(新暦四月十九日)でした。この日は、一二〇

名が棟上げのお祝いに招かれ、直線距離で約二十キロメートルも離れた上毛郡宇島(現豊前市)で購入した、タコ・エイ・エビ・イカを使った魚料理など、大変なご馳走が振る舞われました。ちなみに、この時の永沼家当主は永沼仁助(生年未詳、一八五四)という人で、家建てが行なわれた頃は、帆柱村のほか、近隣の扇谷村・上伊良原村の庄屋を兼務していました。後には節丸手永子(天庄屋の補佐役を勤め、嘉永三年(一八五〇)には同手永大庄屋に就任しています(嘉永四年に一時退任後、翌嘉永五年に再度節丸手永大庄屋となる)。

永沼家住宅の修理

建設後、約一五〇年が経過した昭和六十二年(一九八七)、永沼家住宅の全面解体修理が、国・



◀平成二十一年の屋根葺替え

理では朽ちた材木を取り替えるなどして天保時代に建設された当初の姿が復元されました。また、それから更に二十年ほどを経た、平成二十一年に、同じく国・県の補助金等を受けて、屋根の葺き替えと床下改修を行い、再び、美しく豪壮な姿を取り戻しました。

▶国指定重要文化財 永沼家住宅

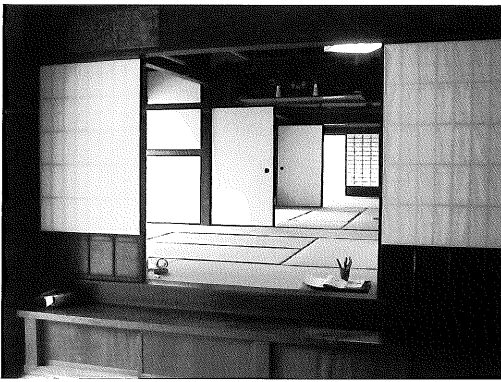


▶永沼家文書「家建諸控帳」



た。この日は、一二〇

▶「にわから」まえさしきの方向をのぞむ



なお、永沼家住宅は「永沼家住宅保存協力会」の皆さんからご協力をいただき、三月中旬から十二月上旬の毎週日曜日に、建物内部が公開されています。また、来る一月二十六日(日)には、国の「文化財防火デー」にちなみ、永沼家住宅で防火点検式が行われます(午前十時から)。点検放水等を行いますので、ぜひ見学にお越しください。(川本英紀)